

## 尼崎SGセット交換の余波 大村はセット交換禁止措置

尼崎のグラチャンでは24人もの選手がセット交換の整備に着手し、そのほとんど全員がパワーアップに成功したことから、大村オーシャンカップの動向が注目された。大村も新エンジンになってまだ5節目だったということもあり、セット交換、シリндаーケース交換は事故による変形以外は禁止、キャリアアボデー交換は抽選で…という措置が取られた。24人も選手が交換した尼崎では、その後セット交換が続出。最終的には44基が交換された時点で部品がなくなり、そこで打ち止めになったという。

セット交換自体ははるか昔から普通に行われていた整備であり、ルール上は何も問題がないのだが、今度の新エンジンは交換すればほぼ上昇が見込めることが判明したことで、尼崎グラチャンでは実施する選手が殺到。少しでも上昇させたい選手たちにとっては、ある意味当然と言えば当然なのだが、一気に24人の交換はやはり異例だった。

とはいえ、一部の選手たちが問題視していたのは実はセット交換という整備に対してではない。簡単に言葉にすると、「前エース機の部品は誰に与えられるのか」ということを問題視していた。今度の新エンジンはたまたまセット交換で大幅な上昇が見込めることが判明したわけだが、その中でも前

エンジンのエース機、もしくはそれに近い上位機の部品に交換すれば、その上昇度がどれほどのものになるのかは想像に難くない。

特に大村の前エンジンには19号機というスーパースペース機があった。もし、これまで通りに自由にセット交換が可能であったならば、19号機の部品を提供された選手が圧倒的に有利な状況だったかもしれない。それら優良部品を常に要求してくる選手がいなくても限らない。え、どの部品をどの選手に出すのかは場の整備士の思惑次第。よってオーシャンカップ開催前には、出す部品は抽選にしてほしいという要望が選手側から出されていた。それを受けてのセット交換禁止、キャリアアボデー交換は抽選で…だったわけだ。

大村ではオーシャンカップ開催中に限らず、現行エンジンはこの方針を継続する予定。低調機には中間整備でセット交換を実施すると思われるので、19号機の部品を出した時はぜひマスコミに情報提供して大々的に宣伝してもらいたい。必ずしもエース機になるとは限らないが、ファンには最高の情報になるのは間違いないので。

なお、次のSG、メモリアルを開催する丸亀は旧エンジンの使用末期。10月のダービーを開催する戸田は8月から新エンジンでちょうど6、7節目になる予定。状況は尼崎や大村に近いので、どう対処するのかまた注目を集めそう。いっそのことセット交換は中間整備に限定するというルールを全国

統一で設けた方がいいのかもしれない。

## 山田哲也が38人目の 全24場全場制覇



7月1日の若松一般戦で山田哲也が史上38人目となる全24場全場制覇を達成した。東京支部では彦坂郁雄、濱野谷憲吾、三角哲男に続く4人目。95期では峰竜太に続く2人目の偉業。

山田が23場目となる児島を制覇したのは20年8月。全場制覇に王手をかけながらも、残る若松にあっせんが入ったのは22年6月と約2年後。ちょうどコロナ禍による地区あっせんが行われていた時期と重なり、なかなかあっせんが入らなかった。王手をかけて以降、これが5回目の若松参戦だったが、それまでの4回中、2回は優出してどちらも5着。残る2回は転覆などによる途中帰郷で、今回は相当な気合を入

# TOPICS

MACOUR  
TOPICS

マクールトピックス

表1 現役で全国24場制覇の28選手

順	選手名	支部	達成年月日	場
8	山室 展弘	岡山	2002.03.09	びわこ
10	山下 和彦	広島	2014.06.23	戸田
11	市川 哲也	広島	2014.08.31	唐津
12	石川 真二	福岡	2014.09.03	宮島
13	徳増 秀樹	静岡	2015.02.28	徳山
15	今垣光太郎	福井	2016.03.31	尼崎
16	岩崎 正哉	福岡	2016.07.14	平和島
17	吉川 元浩	兵庫	2017.04.16	芦屋
19	服部 幸男	静岡	2017.11.03	丸亀
20	重野 哲之	静岡	2018.04.12	福岡
21	赤岩 善生	愛知	2018.04.18	江戸川
22	北川 幸典	広島	2018.7.20	尼崎
23	辻 栄蔵	広島	2018.9.11	桐生
24	原田 幸哉	長崎	2018.9.15	徳山
25	林 美憲	徳島	2018.12.11	常滑
26	上平 真二	広島	2018.12.29	児島
27	深川 真二	佐賀	2019.2.24	蒲郡
28	守田 俊介	滋賀	2019.9.20	多摩川
29	江口 晃生	群馬	2020.4.1	下関
30	石野 貴之	大阪	2020.9.18	下関
31	白石 健	兵庫	2020.12.16	若松
32	濱野谷憲吾	東京	2021.3.26	唐津
33	田口 節子	岡山	2021.9.19	福岡
34	峰 竜太	佐賀	2023.10.29	蒲郡
35	佐々木康幸	静岡	2024.3.11	戸田
36	中辻 崇人	福岡	2024.4.4	常滑
37	三角 哲男	東京	2024.5.23	芦屋
38	山田 哲也	東京	2024.7.1	若松

7月26日に安河内将・健兄弟が記録が残っている96年以降では初となる兄弟同日優勝を達成した。まずはデイリースの平和島で弟の健が大外6コースからのまくり差し。チルト3度だった仲道大輔マークを選択する頭脳プレーで見事な優勝を飾ると、兄の将はナイターの若松で優勝戦1号艇。節一パワーだったこともあり、インから逃げて圧勝した。健は通算4回

安河内将・健が兄弟同日優勝達成

れて若松に乗り込んだ。たまたま手にしたのは2人前の選手がセット交換して大幅に上向いていた上昇機。初日から抜群の手応えを得ると1走たりとも気を緩めることなく予選トップからの王道優勝。12戦して11勝、2着1回という準パーフェクトのオマケ付きだった。



表2 2025年度 S G開催地と日程

レース名	場名	開催日程	当該競走開催実績
第52回 ボートレースオールスター	丸亀(N)	2025/5/27 ~ 6/1	32年ぶり2回目
第35回 グランドチャンピオン	戸田	2025/6/24 ~ 29	16年ぶり3回目
第30回 オーシャンカップ	徳山	2025/7/22 ~ 27	初開催
第71回 ボートレースメモリアル	若松(N)	2025/8/26 ~ 31	8年ぶり10回目
第72回 ボートレースダービー	津	2025/10/21 ~ 26	20年ぶり2回目
第28回 チャレンジカップ	福岡	2025/11/25 ~ 30	初開催
第40回 グランプリ	住之江(N)	2025/12/16 ~ 21	3年連続33回目
第61回 ボートレースクラシック	蒲郡(N)	2026/3/24 ~ 29	34年ぶり5回目

※第28回チャレンジカップは第12回レディースチャレンジカップと同時開催

プレミアムGI			
第26回 マスターズチャンピオン	桐生(N)	2025/4/22 ~ 27	初開催
第39回 レディースチャンピオン	浜名湖	2025/8/6 ~ 11	4年ぶり5回目
第12回 ヤングダービー	宮島	2025/9/23 ~ 28	初開催
第14回 クイーンズクライマックス	大村(N)	2025/12/28 ~ 31	8年ぶり3回目
第7回 ボートレースパバルチャンピオンナメント	尼崎	2026/1/22 ~ 25	初開催
第2回 スピードクイーンメモリアル	鳴門	2026/2/24 ~ 3/1	初開催
GI			
第10回 レディースオールスター	常滑	2025/5/13 ~ 18	初開催
第7回 全国ボートレース甲子園	びわこ	2025/7/8 ~ 13	初開催
GIII			
第12回 イースタンヤング	多摩川	2025/6/14 ~ 19	
第12回 ウェスタンヤング	芦屋	2025/6/15 ~ 20	

目、将は9回目の優勝だった。兄弟姉妹レーサーは引退した選手も含めると実に150組近くいるのだが、96年以降で同日優出はちょうど100件目。そのうち36件は同じレースでの優出だったので同日優勝は同着でもない限りは不可能。残る64件のうち、22件で片方が優勝していたが同時優勝はなかった。安河内兄弟は23年1月13日にも同日優出があり、弟の健がモーニングの鳴門で優勝していたが、大村ナイターだった兄の将は6号艇だったこともあり5着と敗れていた。

S G開催地決定

ちなみに夫婦レーサーによる同日優勝は20年5月17日に深谷知博(桐生一般戦)と鎌倉涼(尼崎ヴィーナス)が達成している。

2025年度のS G及びP G Iなどの開催地が別表通り決定した。グランプリは住之江が3年連続でナイター開催。ダービー開催の津では13年のチャレンジカップ以

来、12年ぶりのSG開催となる。丸亀でのオールスターは実に32年ぶりの開催。若松は3月にクラシックを開催、その5か月後にメモリアルとSGが続く。徳山のオーシャンカップ、福岡のチャレンジカップはどちらも初開催。

PGIは大村が大みそか決戦のクイーンズクライマックス。これが3回目の開催ではあるが、今年の蒲郡に続いて2年連続ナイター開催となる。桐生のマスターズC、宮島のヤングダービー、尼崎のBBCトーナメントはいずれも初開催。また、2回目となる新設のスピードクイーンメモリアルは鳴門に決まった。

GIIは常滑のレディースオールスター、びわこの甲子園はどちらも初開催。

### 新幹線連休は ボート界にも影響

7月22日未明に蒲郡市付近で発生した東海道新幹線の保守用車両衝突脱線事故の影響で、この日は名古屋、浜松間が終日運休となるなど、ダイヤが大きく乱れて25万人の足に影響が出た。この日が前検日だった平和島では出場43選手中、7人が定刻通りに到着できなかった。

平和島ではすでに到着していた36選手で前検作業が行われ、1時間遅れで到着した中村有裕と香川陽太は2人だけでその日のうちにS特訓を行った。残る5選手は初

日の23日に前検作業を行い、レースには2日目からの参戦となったが賞典除外にはならず、優出の権利は残された。

平和島では11年2月の56周年でも大雪のため電車が動かず、前検日に到着できなかった中島孝平が2日目からレースに参加、オール2連対の予選トップ通過から優勝を飾ったなんてこともあった。

### 藪内瑞希が内規違反

7月8日の浜名湖ヴィーナズシリーズ初日に、藪内瑞希が内規違反で即刻帰郷処分を受けた。その中身は6R出走時、本来なら3キ口の重量調整をしなければならぬところを、2・5キロで出走したことがレース後の検査で発覚。重量調整違反により、後半10Rを欠場して帰郷となった。

男子は52キロ、女子は47キロと最低体重が決められており、これに満たない選手は500グラム単位の重りで重量調整する。その体重は一部の宿舎で計測する場を除いて、場に到着してすぐに医務室で計測し、それを元にその日は何キロの重量調整するのかが決まるシステム。通常はジャケット(これも500グラム分として加算)を着用して、そのポケットに重りを入れるが、3・5キロを超える重量調整を行う場合は、ボートに重り(1キロ単位)を積みことも認められている。選手が決められた重

量調整をやっているかどうかはS展示前にピットの検査員がチェックするが、見落としていたようだ。

### 競走会職員22人が解雇

一般財団法人「日本モーターボート競走会」は7月23日、職員22人を懲戒処分にしたと発表した。モーターボート競走法で禁止されている舟券購入が発覚したため。今後はモーターボート競走法違反に係る司法上の手続きについて、警察と相談していくという。

きっかけは今年5月、江戸川支部の元特別嘱託職員が在職期間中にスマートフォンアプリを使って舟券を購入していたことが発覚し、書類送検されたこと。

この事態を受け、同会役員750人に聞き取り調査などを実施したところ、準職員1人、特別嘱託1人、属託20人の合計22人の舟券購入者が確認されたという。

モーターボート競走法では競走に関係する政府職員、施行者職員、競走実施機関の役員、選手は全ての競走で、またレース場内で舟券の発売や警備、その他事務に従事する者の当該競走の舟券購入を禁止している。

### 山口高志が酒気帯び運転 で現行犯逮捕

7月10日午前11時頃、唐津市内

で酒気帯び運転で信号機に衝突した佐賀支部の山口高志(92期)が現行犯逮捕された。山口は前日の9日まで地元の唐津に出場しており、最終日まで走り終えた翌日の出来事だった。警察の調べに対し、「間違いありません」と容疑を認めたと報道され、7月18日に引退届けを提出した。

### 今月の引退選手

7月は次の6選手が引退した。

3044 三宅爾士(福井63歳50期)  
3243 佐野隆仁(大阪60歳58期)  
3537 田山和広(福岡56歳69期)  
3709 田中浩之(山口50歳74期)  
3693 栢場優子(東京53歳74期)  
4222 山口高志(佐賀42歳92期)

三宅爾士さんは北川幸典らと同



三宅爾士

期。4年目からA級に定着し自己最高勝率は98年前期の7・74。この期は13優出6優勝と荒稼ぎした。SGには4回出場。GIは2回の優出があり、91年2月近畿ダービーで初優出初優勝した。通算成績は8557走で勝率5・85、1587勝、優出217回、優勝31回。生涯獲得賞金は約8億4363万円。現役最後のレースは3月13日の津。

佐野隆仁さんは三角哲男らと同期。故・横山やすしさん(漫才師にしてアマチュアポードレーサー)に弟子入りしたことがきっかけでこの世界に入り、A1級には12期昇格。SG出場やGI優出はなかったものの、一般戦強豪クラスとして活躍した。選手会の近畿地区理事を2年間務めた後、14年6月から4年間、上瀬和則会長の下で専務理事として裏方で活躍、18年7月に実戦復帰した。通算成績は7220走で勝率5・37、1



栢場優子

519勝、優出142回、優勝25回。生涯獲得賞金は約6億4983万円。現役最後のレースは6月18日の丸亀。

田山和広さんは太田和美らと同期。競輪選手を目指して吉岡稔真らと練習していた時期もあったそうだが、こちらの世界に転身。ペラは植木通彦グループに所属している時期もあった。A1級昇格はなかったがA2級は15期で自己最高勝率は06年前期の5・68。通算で24回の優出はあったものの、優勝なしのまま引退。現役最後のレースは6月26日の地元芦屋。

田中浩之さんは守田俊介らと同期。98年後期に5・60の自己最高勝率を残して1度だけA2級に昇格がある。優出は4回あったが優勝はなし。現役最後のレースは6月26日の常滑。

栢場優子さんも守田俊介らと同期。最低体重制限のルール前は女子の中でも軽量級。02年後期には6・16の自己最高勝率を残して1度だけA1級昇格も果たした。レディースチャンピオンには13回の出場があり、優出も2回。通算では36回の優出で3回の優勝がある。現役最後のレースは7月13日の浜名湖。

山口高志さんは毒島誠らと同期。A1級も2期経験して自己最高勝率は14年後期の6・50。GIには2回出場している。通算では51回の優出で優勝は3回。現役最後のレースは7月9日の地元唐津で、酒気帯び事故を起こしたのはその翌日だった。

### 選手の負傷情報

蛭川哲平 7月5日下関ミッドナイト3日目6Rのスタート後、インと3コースの選手にはさまれて落水した際に第2腰椎(ようつ)に破裂骨折、右尺骨骨折の重傷。全治見込みは未定。

村田 敦 7月14日唐津一般戦2日目8Rの2周2マークで4番手を航走中、先行艇が失速したことで玉突きとなり、後続艇に接触した際に左第6・7肋骨を骨折。全治見込みは約6週間。

### 今月の水神祭

- (初勝利) 7月10日 田上 凜(大阪132期)
- 7月11日 藤森 拓海(福岡132期)
- 7月28日 長谷川 暖(岡山134期)
- (SG初勝利) 7月26日 小池 修平(大阪117期)
- (初優勝) 7月7日 田中 宏樹(福岡116期)
- 7月7日 登玉 隼百(兵庫127期)
- 7月19日 渡邊 翼(山口114期)
- (GI初優勝) 7月21日 片橋 幸貴(滋賀109期)

デビュー2年目を迎えた132期の田上凜と藤森陸が初勝利。田上は丸亀の男女混合戦で6コースから差し抜けて3連単は15万円

台の大穴を提供。藤森の方は児島で6コースからのまくり差し。グランチャン制覇後の土屋智則を破る大金星だった。132期の未勝利は残り9人となっている。

デビュー期の134期からは長谷川暖がようやく2人目の初勝利。宮島の6コースからコマ03のスタートでまくり先行するも2マークでターンマークを外し逆転を許したが、2周1マークで差しの抜き勝ち。3連単は5万円台の配当でびつくりするような大穴ではなかった。

初優勝は3人。6回目の優出だった田中宏樹は蒲郡で予選トップからイン逃げ王道優勝。116期では7人目の優勝者になった。

2回目の優出だった登玉隼百は江戸川のレディースVSLルキーズバトルで2コースからの差し。127期では仲道大輔、坂本雄紀に続く3人目の優勝者。

14回目の優出だった渡邊翼は芦屋。前付けの深川真二を入れて絶好の3コースになり、スタート一気のまくり勝ち。羽野直也らがいる114期では13人目の優勝者。

### 獲得賞金ランキング

オーシャンカップ制覇の茅原悠紀が先月の19位から一気に3位まで浮上。毒島誠、菊地孝平の1、2位はそのままで、オーシャンカップ優出組の椎名豊は先月の80位から25位、齊藤仁は67位から26位

表4 女子獲得賞金ランキング

順	選手名	獲得賞金額
1	遠藤 エミ	28,783,000
2	浜田 亜理沙	28,505,166
3	守屋 美穂	28,014,000
4	渡邊 優美	26,951,866
5	三浦 永理	26,005,000
6	平山 智加	22,808,866
7	細川 裕子	22,773,999
8	海野 ゆかり	21,958,000
9	宇野 弥生	20,459,932
10	藤原 菜希	18,811,000
11	清楚 翔子	18,667,000
12	田口 節子	17,764,000
13	平高 奈菜	17,750,500
14	西橋 奈未	17,591,000
15	松尾 夏海	17,569,000
16	岩崎 芳美	17,529,500
17	長嶋 万記	17,274,000
18	平田 さやか	17,065,464
19	窪森 美祐	16,531,000
20	落合 直子	16,417,333
21	寺田 千恵	16,204,732
22	川野 芽唯	16,025,982
23	今井 裕梨	15,439,398
24	日高 逸子	15,060,848
25	大瀧 明日香	14,813,000
26	廣中 智紗衣	14,762,000
27	関野 文	14,509,666
28	向井 美鈴	14,452,982
29	香川 素子	14,422,000
30	櫻本 あゆみ	13,990,066
31	深川 奈美	13,906,999
32	山田 幸子	13,473,000
33	中谷 朋子	13,374,000
34	山川 美由紀	13,233,000
35	蜂須 瑞生	13,166,000
36	津田 裕絵	13,117,000
37	樋口 由加里	12,846,466
38	平川 香織	12,834,000
39	土屋 南	12,829,333
40	西岡 成美	12,676,000
41	中川 りな	12,561,982
42	中田 夕貴	12,553,732
43	魚 ひとみ	12,550,000
44	角谷 香織	12,300,000
45	喜井 つかさ	12,219,066
46	刑部 亜里紗	12,011,933
47	滝川 真由子	11,975,066
48	松本 晶恵	11,876,866
49	中澤 宏奈	11,688,000
50	土屋 美沙希	11,670,500
51	後藤 美翼	11,521,000
52	大豆生 田蒼	11,270,000
53	川井 萌	11,239,833
54	片岡 恵里	11,234,000
55	犬童 千秋	11,087,834
56	勝浦 真帆	11,079,000
57	山下 夏鈴	11,050,834
58	小野 桜	10,962,000
59	堀之内 紀代子	10,795,000
60	数内 瑞希	10,788,000
61	西村 歩	10,589,000
62	赤井 睦	10,476,000
63	山本 梨菜	10,409,466
64	前田 紗希	10,368,000
65	寺島 美里	10,257,333
66	喜多須 杏奈	10,220,333
67	松瀬 弘美	10,166,000
68	中里 優子	10,130,466
69	山口 真喜子	10,093,000
70	上田 紗奈	9,996,000

表3 獲得賞金ランキング

順	選手名	獲得賞金額
1	毒島 誠	88,055,500
2	菊地 孝平	79,104,000
3	茅原 悠紀	78,383,333
4	馬場 貴也	66,825,833
5	土屋 智則	66,712,333
6	定松 勇樹	66,037,000
7	山口 剛	60,336,333
8	平本 真之	60,176,466
9	宮地 元輝	59,302,333
10	上條 暢高	55,340,000
11	峰 竜太	55,253,333
12	池田 浩二	53,687,000
13	桐生 順平	53,598,333
14	瓜生 正義	49,675,999
15	西山 貴浩	48,759,333
16	関 浩哉	47,307,760
17	松井 繁	46,025,000
18	吉川 元浩	44,576,666
19	森高 一真	42,910,266
20	島村 隆幸	41,609,000
21	石渡 鉄兵	40,168,848
22	寺田 祥	39,605,000
23	湯川 浩司	38,596,500
24	深谷 知博	38,470,000
25	椎名 豊	37,764,000
26	齊藤 仁	37,676,912
27	磯部 誠	37,413,333
28	宮之原 輝紀	36,719,466
29	原田 幸哉	36,725,333
30	上野 真之介	36,654,666
31	篠崎 元志	36,493,532
32	前田 将太	36,147,333
33	赤岩 善生	35,955,519
34	石野 貴之	35,013,466
35	山崎 郡	34,712,866
36	河合 佑樹	34,712,000
37	坪井 康晴	34,522,000
38	新開 航	33,404,000
39	片岡 雅裕	33,250,666
40	濱野 谷 憲吾	33,210,333
41	小池 修平	32,902,000
42	新田 雄史	32,652,000
43	長田 頼宗	32,635,500
44	西村 拓也	32,014,000
45	池永 太	31,420,000
46	白井 英治	31,223,500
47	桑原 悠	31,203,466
48	大池 佑来	29,542,866
49	福田 浩二	29,536,260
50	豊田 健士郎	29,428,000
51	柳生 泰二	29,379,999
52	佐藤 翼	29,356,000
53	吉田 拓郎	29,265,733
54	徳増 秀樹	29,226,333
55	福来 剛	29,120,333
56	中田 竜太	29,065,000
57	中澤 和志	28,812,000
58	中辻 崇人	28,787,000
59	遠藤 エミ	28,783,000
60	浜田 亜理沙	28,505,166
61	魚谷 智之	28,428,000
62	柳沢 一	28,346,000
63	山本 寛久	28,154,000
64	守屋 美穂	28,014,000
65	上田 龍星	27,987,000
66	中島 孝平	27,966,426
67	藤原 啓史朗	27,776,000
68	枝尾 賢	27,692,799
69	田村 隆信	27,500,000
70	松村 敏	27,407,500

最優秀新人争いに動きがあつ

年間タイトル争い

へと順位を上げている。惜しくも優勝を逃した山口剛も15位から7位へ浮上した。  
女子はレディースチャンピオン前の順位なので大きな変動はないが、オーシャンカップで予選突破の遠藤エミは浜田亜理沙と守屋美穂をまとめて逆転してトップに浮上。浜田は2位をキープし、F休み中の守屋はさすがに順位が下がってきた。他には渡邊優美、田口節子、清楚翔子らも順位を上げている。

た。トップ独走中の藤原碧生が若松ルーキーで3回目の優勝を飾り、これがどうやらタイトル獲得へダメ押しになりそう。対象選手は優勝3回は18年の大山千広以来。17年には羽野直也が4回優勝している。過去には田村隆信が3年目に8回優勝なんてこともあったが、まだ5か月も残っているのどこまで優勝回数を積み上げるのか楽しみしかない。  
最多勝利と最高勝率は依然として中辻崇人がトップに君臨。勝率は峰竜太が差を詰めてきたが、最多勝利の方は2位の松村敏に15本差。この差はかなり大きい。

表5 年間勝率

	優出	優勝
1	中辻 崇人	8.22 13 6
2	峰 竜太	8.19 5 2
3	毒島 誠	8.12 7 4
4	山口 剛	7.99 8 2
5	池田 浩二	7.94 8 3

表6 女子年間勝率

	優出	優勝
1	浜田 亜理沙	7.57 8 1
2	三浦 永理	7.55 12 4
3	守屋 美穂	7.54 8 4
4	渡邊 優美	7.06 8 2
5	遠藤 エミ	7.05 4 1

表7 年間最多勝利

	優出	優勝
1	中辻 崇人	91 13 6
2	松村 敏	76 15 2
3	深川 真二	69 9 4
3	上野 真之介	69 12 4
5	佐藤 隆太郎	68 12 6
5	塩田 北斗	68 10 2

表8 新人年間勝率

	優出	優勝
1	藤原 碧生	6.67 5 3
2	飛田 江己	6.33 2 0
3	藤田 俊祐	6.20 3 0
4	若林 樹蘭	6.14 3 0
5	中野 仁照	6.06 2 0

7月28日現在